

1. 研究課題名：
震災復興におけるコミュニティベースの
太陽光普及モデル事業の提案

2. 研究代表者氏名及び所属：
古谷知之（慶應義塾大学 総合政策学）



3. 研究実施期間：平成 24 年度

4. 研究の趣旨・概要

太陽光は最も分布が広くアクセスしやすい自然エネルギーとして震災復興においても高く期待されている。しかし家庭単独導入ではコストが高い。スマートシティ実験でも持続可能な事業モデルは確立されていない。本研究は Web 調査と国内50、国外50の事例調査を行い、家庭単独導入とコミュニティベース導入の効果と事業要件を特定し、震災復興地域において政策目標に即してエネルギーコミュニティ(コモンズ)を構成し、それによる太陽光普及の事業モデルを提案することを目的とする。これによって津波や原発事故による空き地や耕作不適地の有効利用策とその実現手法が示され、コミュニティベースのエネルギーアクションプランの形成が可能となる。

5. 研究項目及び実施体制

- ①放射性物質汚染地域におけるメガソーラーモデル事業の検討
(慶應義塾大学 SFC研究所)
- ②コミュニティベースの太陽光利用事業モデルの事例調査
(慶應義塾大学 SFC研究所)
- ③自然エネルギーの活用による津波被災地域の復興計画の提案
(慶應義塾大学SFC研究所)
- ④原発被害地域における観光地・農業再生モデルの検討
(慶應義塾大学SFC研究所)
- ⑤エコビレッジモデル事業のデザイン
(慶應義塾大学 SFC 研究所)

6. 研究のイメージ

